

機能の低下した脳を健康な状態に引き上げることができるとしたら、  
もともと健康な脳の機能を標準以上に引き上げることもできるのではないか？

UTCP 短期教育プログラム

# エンハンスメントの哲学と倫理

脳神経科学の発達に呼応して、医学、薬学、工学などにおけるその技術的な応用可能性が切り開かれつつある。集中力や記憶力などの知的能力を高める薬物や、脳とコンピュータとの直接相互作用を可能にするインターフェイス (BMI)、神経信号の読み取り技術に基づいたロボットスーツの開発。こうした技術は第一に、障害のある脳の治療を目指す。しかしそれに加えて、第二の目標として、人間の能力の拡張や増強、つまり、エンハンスメント技術をも視野に含むものである。

ポスト・ヒューマン

人格の同一性

しかし、エンハンスメント技術は、かりに能力の向上をもたらすものであったとしても、脳という精神の座に介入し、また有限の能力の枠内で生きるほかないという人間の生の基本的条件をも変更してしまいかねないといった点において、無条件に承認できるものではない。したがって、現時点で、社会がエンハンスメントにどのような形で対応すべきなのかを、哲学的・倫理的観点から考察せねばならない。

2008年 3月 第1回研究会

2008年 5月 第2回研究会

2008年 6月 シンポジウム

「エンハンスメントの哲学と倫理」

2008年 8月 第3回研究会

2008年 10月 ワークショップ

2008年 12月 第4回研究会

主催

植原亮

中澤栄輔

University  
of Tokyo  
UTCP  
Center  
for Philosophy